

コックリさん

2005(平成17)年3月7日鑑賞(ヘラルド試写室)



監督＝アン・ビョンギ／出演＝キム・ギュリ／イ・セウン／イ・ユリ／チェ・ソンミン／チェ・ジョンユン／ウン・ソウ (プエナ・ビスタ・インターナショナル〈ジャパン〉) 配給／2004年韓国映画／92分)

……私はホラー映画が嫌い。だから、ハリウッド版ホラー映画はまず観ない。そんな私が韓国版ホラー映画だけはなぜか観てしまうのは、きっとキレイな女優さんのせい……？ この映画では、ストーリーはともかく(？)、4人(3人？ 2人？)の美人女優に注目！ もっとも、恐いものはやっぱり恐いので、途中目をつぶっていたところも多いが……？

「コックリさん」とは？

パンフレットには、「空前のオカルト・ブームに沸いた1970年代の日本では、『コックリさん』は社会現象にまで発展し、一部の地域や学校では、これは厳しく禁じられた」と書いてあり、インターネットで調べても『『コックリさん』は日本においてもっとも有名な霊遊びだ』と書いてある。そして、私の事務所の若い女性事務員に「コックリさんを知っているか？」と聞くと、当然のごとく「知ってますよ」との答え。「こりゃ、アカン！ 俺が知らないだけらしい」とわかり、インターネットで情報を打ち出してみると、そこには詳しい情報が……。したがって、「コックリさん」を既によく知っている人は不要だが、知らない人は是非自力でインターネットを利用して、まずはその勉強を……。

3人プラス1人の美女、そして……

このホラー映画の主演は、パンフレットの表現をそのまま使えば、

- ①《呪いの謎を追う女教師》イ・ウンジュ役 (キム・ギュリ)

②《呪いを呼び寄せる女子高生》イ・ユジン役（イ・セウン）

③《30年前に不審な死を遂げた謎の女子高生》キム・インスク役（イ・ユリ）

という3人の25歳前後の韓国美女。そしてもう1人、問題の2年7組の担当教師ハン・ジェフン（チェ・ソンミン）の同級生（？）の美女ホギョン（チェ・ジョンユン）が絡んでくる。さらにラストに少しでも登場する特徴ある顔の女の子は、2年前の『ボイス』（02年）で恐ろしい形相をみせつけたウン・ソウ。

2年7組出席番号29番の席は？

舞台は、韓国の片田舎（？）にある因習にとらわれた小さな村。日本映画のイメージでいえば、さしずめ横溝正史の『八つ墓村』（77年）か……？ この映画の主人公は、この村にあるイヌア女子高校にソウルから転校してきたユジン。同級生である4人組の女の子によるイジメにあったユジンは、2人の仲間とともに「コックリさん」によって4人組に呪いをかけることに……。この女子校の2年7組のクラスには、出席番号29番の呪われた席があった。その席には、30年前この村に、母のチュニとともに移住してきたインスクにまつわる不幸な物語が……？

ビニール袋にライターの火はちとエグい……？

この映画は、アン・ビョンギ監督の『友引忌』^{ともびき}『ボイス』に続く「ゴーストストーリー3部作」の完結篇とのこと。こういうホラー映画は、「これでもか、これでもか」とその恐さを次々とパワーアップしなければならない宿命にある。この映画で起こる惨劇は、女子高生たちに顔に黒いビニール袋をかぶせたうえ、ここにガソリンをまいて火をつけるというもの。したがって、ちとエグく、R-15指定もうなずける。「怖いもの見たさ」という願望が少なく、気の弱い私などは、恐怖場面になるといつものように、ほとんど目を閉じる状態に……。

恐怖は目がポイント！

『ボイス』の主人公は、この映画でも最後にチョイ役として登場する子役のウン・ソウだったが、そこでも強烈に印象に残っているのが、ウン・ソウの目。無表情でじっと見つめるその目は実に不気味だったが、それはこの映画でも同じ。

ユジンの馬鹿デカく見開いた、ちょっと出っ張った目もかなり恐いが、緑内障で視力を失ったというインスクの目はもっと恐い！そしてこの恐い目によく似合う(?)のが、一昔前のボディコン全盛時代にはやったワンレンの髪。長く垂れた髪の間に見える不気味にじっと見つめる大きな目。これがポイントだ。なお、しつこいようだが、このワンレン女性は美女であることが絶対条件……。

日本語吹替版もなぜか美女……？

本作は、4月23日から全国「激コワ」ロードショーされるが、日本語吹替版を担当する2大ボイスキャストは、声だけの出演なのに、なぜか2人の美女。女子高生のユジンの声を担当する優香はなるほどと思う起用だが、私が注目するのは戸田菜穂。すごい美人が出ているナと私が印象強く思ったのが、テレビの人気ドラマ『ショムニ』シリーズと劇場版『スカイハイ』(03年)。ちょっと地味なため(?)まだ大ブレイクしていないが、私の目ではすごくいいオンナだから、美人教師のウンジュの日本語吹替としては実に適役……？

韓国版ホラー映画は美女でもつ……？

いつも言っているように、私はホラー映画が嫌い。だって、貴重な時間を使ってわざわざ恐い思いをして一体何になるの？いつも思っているから。最近では日本映画でも、『呪怨』(02年)や『着信アリ』(03年)などが大はやりとなり、これがハリウッドでリメイクされている。私はハリウッド版ホラー映画は基本的に観ないが、韓国版ホラー映画については、これはやはり観ておかなければ、と思うものが多い。それは何よりもそこに登場する女優が美人だから……。

韓国のホラー映画の主人公は必ず女性。これは、アン・ビョンギ監督が言うように、「東洋の世界では、恐怖を生み出す源として『霊』を語る場合、女性の幽霊であることがほとんどで」あり、また、『^ハ恨』をテーマに物語を作ろうとすると、自然と女性が主人公の物語になりますね」というわけだ。恐いホラー映画は観たくないが、そこに登場する韓国美女は観てみたい。そんな微妙な気持でホラー映画嫌いの私も観客となるのだから、「韓国版ホラー映画は美女でもつ」と言っても過言ではないかも……？

2005(平成17)年3月7日記